

大腸 CT 検査は、低侵襲でありながら高い診断精度を有する検査法として広く普及している。特に大腸腫瘍性病変のスクリーニングにおいてその有用性が確立されており、患者負担の少なさから受診率の向上も期待される。一方で、大腸 CT 検査の診断能は腸管拡張の質、適切な体位変換、撮影条件の最適化など、検査手技の精度に大きく依存する。そのため、検査を担当する診療放射線技師には標準化された手技に対する十分な理解と確実な実践が求められる。さらに近年では、タスク・シフト／シェアの推進により、一定の条件下で診療放射線技師による直腸カテーテル挿入が可能となり、診療放射線技師の役割は従来以上に重要性を増している。本講義では、診療放射線技師が主体となって実施する大腸 CT 検査において、標準的な撮影手順を整理するとともに、腸管拡張、体位変換、撮影条件設定など、安全かつ安定した検査を行うための実践的ポイントについて解説する。